

昨年7月30日、社会保障審議会介護保険部会から「介護保険制度の見直しに関する意見」が示され、現在、この「意見」をめぐって多くの関係者が賛否を表明したり、将来を見越した新規事業の準備に追われています。そこで本特集では、介護保険部会の審議内容を踏まえて「見直し」の意図するところを解説していただくとともに、介護保険に関わるそれぞれの領域から、問題点と今後の展望を中心に率直な意見を述べていただきました。

■介護保険制度の見直しと改革の方向

社会保障審議会介護保険部会のメンバーとして、計18回におよんだ審議会の議論を踏まえ、その内容を紹介するとともに、障害者支援費制度と介護保険制度とのいわゆる「統合」問題について展望している。社会保障・社会福祉に長年携わってこられた筆者ならではの見解を交え、見直しのポイントを分かりやすく解説しており、介護保険関係者、とりわけ障害関係者には必読の論文である。（京極高宣氏，7頁）

■リハビリテーション医療の課題

リハビリテーション医療を急性期の課題、医療から介護への移行期の課題、地域リハビリテーションの課題に分け、日本リハビリテーション医学会として行った調査などを基にその問題点と今後の展望について解説している。今後、リハビリテーション医療の立場からは介護予防と痴呆のリハビリテーションに取り組むことが期待されており、学会として、これらの課題についてエビデンスを示す必要がある。（近藤克則氏，17頁）

■地域リハビリテーションの課題

地域リハビリテーションに関して、主に介護予防サービス、廃用モデルに対するリハビリテーション、地域サービス機関の連携について、私見を交えて解説している。見直し案で示された予防給付は地域リハビリテーションの概念と一致しており、その重要性が再認識された。今後は、要介護者向けの廃用モデルに対するリハビリテーションの基盤整備や地域サービス機関の連携を拡充することなどが重要である。（大塚友吉氏，25頁）

■障害者福祉との統合問題

介護保険制度の見直しと障害者福祉の現状の課題について、厚生労働省が示したグランドデザインの中で提案された「障害者福祉サービス法（仮称）」を中心に解説している。介護保険制度における審査会は、障害者のエンパワメントを目指すものにしていく仕組みが大切である。審査過程については、障害種別の特徴と障害者支援における介護の価値や意味を汲み取る体制が検討課題である。（田中 晃氏，31頁）

■当事者の立場からみた課題と展望

介護保険と障害者施策の統合議論は、統合論→介護保険活用論→被保険者拡大論という3つの時期に区分できる。もともと拙速な形で始まった議論は、ずるずると「介護保険への吸収合併」にシフトしてきており、当初言われていた「介護保険のあり方を変えたうえで統合を図る」というような前向きな議論にはなっていない。今回の「統合＝吸収合併」は見送り、再度冷静な議論ができる環境にすることが求められている。（尾上浩二氏，39頁）